



南アルプスジオパーク・
南アルプスユネスコエコパーク構想

もっと南アルプスを知ろう

問 世界自然遺産登録推進室

南アルプス開拓の父 竹澤長衛

竹澤長衛翁は1889(明治22)年、黒河内村(現・伊那市長谷)戸台に生まれ、1958(昭和33)年に亡くなるまで、南アルプス開拓のために尽くした人です。

長衛翁は、山の案内や狩猟の仕事をしていた1930(昭和5)年、北沢峠に山小屋(現・長衛小屋、旧北沢駒仙小屋)を建てました。また1941(昭和16)年からは、仙丈ヶ岳や栗沢山などに歩きやすい新登山道を作り、1951(昭和26)年には藪沢小屋も建てました。

長衛翁を動かしたのは、増え始めていた登山客に宿泊・食事・山の情報を提供する拠点を作りたい、遭難者を出して大切な山に迷惑をかけたくない、という使命感でした。「山はでえじにしにゃーいけねえ(大事にしなればならない)」という長衛翁の口癖には、山に対する感謝の気持ちが表れています。

毎年6月には長衛小屋の前にある長衛翁碑の前で、長衛翁をしのび、安全で楽しい登山を誓う「長衛祭」が行われています。



長衛小屋前の長衛翁碑